

第18回全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）プレ大会 兼
第18回全国障害者スポーツ大会ソフトボール競技
北信越・東海ブロック予選会実施要領

1 競技規則

平成30年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会制定）によるもののほか、この要領の定めるところによる。

2 チーム

- (1) チームの構成は、監督1名、コーチ2名以内および選手15名以内（男女は問わない。）とする。
- (2) 監督およびコーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手の人数は、選手を兼ねる監督およびコーチを含め15名以内とする。

3 競技方法

- (1) 試合は、福井県チームを除くトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。また、トーナメント戦以外に福井県チームを含めた交流戦を実施する。
- (2) 試合は、5イニング制とし、試合開始後60分を経過した後は、新しいイニングに入らない。
- (3) 同点の場合は、タイブレーカーにより試合を延長して行う。ただし、延長は2回を限度とし、延長開始後15分を経過した後は、新しいイニングには入らない。それでも同点の場合は、最終出場選手9名の抽選によって勝敗を決定する。（決勝戦を除く。）
- (4) 3回終了以降10点以上の差が生じたときは、得点差コールドゲームとする。また、降雨等の事情により試合の継続が不可能と判断された場合は、3回以上の回の終了をもってコールドゲームとする。（決勝戦を含む。）
- (5) ファーストピッチにより行う。
- (6) 競技場のフェア地域および塁間距離と投球距離は、女子の規格に準じる。
- (7) パスボール、振り逃げ、スクイズバントおよび盗塁は適用しない。
- (8) ピッチャーが投球したボールが、ホームベースを通過した時点でボールデットとし、キャッチャーからの牽制、暴投による進塁など、その後のプレーは成立しない。
- (9) ランナーが帰塁を故意に遅らせた場合は、審判団から厳重に注意し、再度繰り返す場合は、審判団の判断で遅延行為によりランナーをアウトとする。
- (10) 指名選手（DP）および再出場（リエントリー）を採用する。
- (11) 試合球は、公益財団法人日本ソフトボール協会検定ゴム製3号球とし、主催者が用意する。

4 服装等

- (1) 同一チームの監督、コーチおよび選手は、同色・同意匠ユニフォームを着用しなければならない。また、男子は同じ帽子を着用しなければならない。
- (2) ユニフォームナンバーは、背中と胸下につけなければならない。監督は30番、コーチは31番と32番、主将は10番とし、他の選手は1番から99番の番号とする。また、ユニフォームの左袖（左肩から10cm程度）に都道府県・指定都市名を表示すること。

- (3) 打者・打者走者・走者、次打者および1・3塁のベースコーチは、両耳あてのある同色のヘルメットを着用する。また、捕手は、スロートガード付きマスク、捕手用ヘルメット、ボディプロテクターおよび膝当て付きレガースを着用する。
- (4) 金属製スパイクの使用は禁止する。

5 組合せ

組合せは、平成30年に開催するプログラム編成会議において、主催者が関係者立会いのもとに代理抽選の上、決定する。

6 打順表等

- (1) 打順表は、試合開始時刻30分前までに5部作成し、競技会場の競技本部へ提出する。なお、打順表は監督会議において競技本部から配布する。
- (2) 攻守の決定は、打順表提出時に審判員立会いの下、球審がコインのトスによって決定する。

7 その他

- (1) 監督会議は協議開始前に行い、その場において申し合わせ事項を設けることができる。
なお、監督会議の時間および場所については別途通知する。
- (2) ベンチは、組合せ表の番号が若いチームを1塁側とする。
- (3) ベンチ内へは、監督、コーチ、選手以外は入ることができない。ただし、けが等に対応するため、トレーナー等を帯同するチームは、トレーナー等について1名ベンチに入ることができる。この場合のトレーナー等は、医療知識があり、実際に施術ができる者とする。
- (4) 練習場所については、主催者からの指示に従うものとする。
- (5) 練習球は、各チームが用意する。
- (6) 少雨の場合は決行するが、荒天時他不測の事態が生じた場合等の取扱いは、主催者において別途決定する。